

片山東熊の遺した新出資料について
—はがきから読み解く皇室建築家の人物相関—

Keywords

片山東熊 明治時代
皇室建築 長州藩

1. 研究背景と目的

明治維新をきっかけとして、日本の建築は国威を示すために西欧式の建物が求められるようになり、明治政府を主体とした建築活動の中で本格的な洋風建築を建てる動きが強まった。明治4年(1871)に「工学の父」と称される山尾庸三が伊藤博文とともに工部学校設立を政府に建議し、明治6年(1873)に工部省工学寮工学校(現東京大学)が開校された。そして、明治12年(1879)に工部大学校造家学科(現東京大学建築学部)から4名の第一回卒業生が誕生する。

本研究では、この4名の内の一人、片山東熊の遺した資料が発見されたため、この資料を追い整理・解析することによって以下の二点を導きだすことを目的とする。
(1)片山東熊と交流のあった人物を特定し、さらに片山の建築活動に関わった人物をまとめることで、片山を中心とした当時の人間関係と建築、明治時代の関係性を明らかにする。

(2)研究対象である新出資料の価値を明確化し、歴史的
位置付けを行う。

2. 研究方法

- (1) 片山満子邸(東熊の孫鎮熊氏夫人)・片山東彦邸(東熊のひ孫)にて資料調査を行う。
- (2) 調査により得られたはがきを整理・解析し、片山東熊と交流のあった人物を特定する。
- (3) 調査により得られた室内調度品や装飾等サンプル、スケッチ図面と現存する建物や残された写真を比較検討し、資料を分類する。
- (4) 文献を読み込み、片山の建築活動に関与した人物をまとめ・整理する。
- (5) (1)~(4)により人物相関図を作成する。整理・解析した資料を総合した年表を作成し、片山東熊の建築活動と交流関係から時代と片山の出世の関係性を考察する。

K07079



中山 まりか

3. 片山東熊について



図1 片山東熊

嘉永6年(1853)12月20日に長州藩で誕生し、慶応元年(1865)には高杉晋作が結成した奇兵隊に入隊した。慶応4年(1868)の戊辰戦争では、山縣有朋の率いる討幕軍に加わり奮戦した。

明治6年に工学寮に入学し、専門科で造家学を専攻した。卒業後

は営繕局七等技手として工部省に入省し、明治15年(1882)に有栖川宮邸建築掛として欧州各国をまわり、各国宮殿を視察し邸邸の室内装飾品の調達を行った。この視察をきっかけとして、その後皇居造営に出仕し、宮殿の室内装飾を担当した。片山東熊は生涯を明治宮廷と政府関係の仕事に捧げたとされる人物でだ。

4. 資料調査について

2010年7月24~25日に片山満子邸にて、2010年12月25日に片山東彦邸にて資料調査を行い、発見された資料を表1に示す。これらの資料は江戸初期から連光寺村の名主を代々務め、明治天皇などが皇族方が行事した際に御小休所として利用された富澤家から発見された物である。図2に富澤家と片山家の関係を示す。

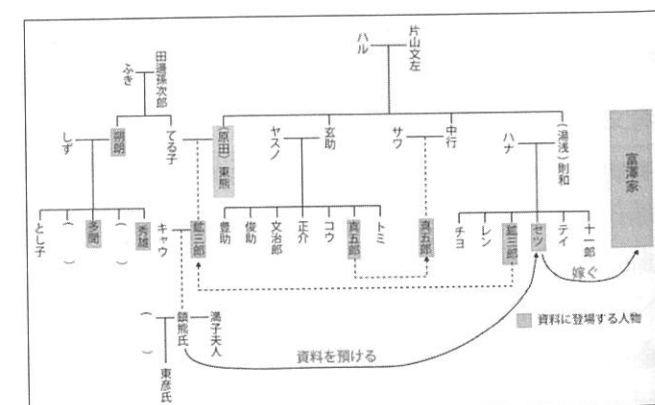


図2 片山家・田邊家家系図と富澤家の関係

表1 調査リスト

NO	資料名	数量
1	はがき	227枚
2	図面	6枚
3	写真	25枚
4	サンプル帳-壁紙	1枚
5	サンプル帳-調度品	11枚
6	サンプル帳-鉛筆画	12枚
7	サンプル帳-装飾	4枚
8	片山のスケッチ・図面と思われる物	2枚
9	建築物の工事中写真	1枚
10	模型写真	2枚
11	田邊秀雄のスケッチと思われる物	1枚
12	壺	9点
13	旧帝国奈良博物館パス	1枚
14	皇后陛下御歌	一首
15	御歌	一首
16	明治/大正天皇皇后陛下御写真帖	1冊
17	伏見桃山御陵工事写真	1冊
18	青山御大葬式場建築記念写真帖	1冊
19	大正十年 特別大演習写真	1冊
20	代々木御大葬儀御式場御新営工事記念写真帖	1冊
21	明治天皇大葬儀写真	1冊
22	メダリオン(モチーフ片山東熊)	1枚
23	胸像-ブロンズ製(モチーフ片山東熊)	1体
24	位牌	1柱
25	コンゴ博士遺作集	1冊
26	塗料界(第3巻 第5巻)	1冊
27	日本ペイント製造株式会社新株主募集規定及び款等	1紙
28	日本ペイント製造株式会社現在及将来	1冊

総数317点

注記; 本研究において№1~№12までを整理・解析対象とする。

5. 分析

5-1. 図面について(資料No2)

資料調査で6枚の図面が発見され、3枚は冬宮殿の図面である。(図3) 既往研究において、東熊が東宮御所の設計参考のために訪れた場所は明確に分かっていないが、図面が発見されたことにより、冬宮殿を参考の一つにしたということがほぼ明確となった。

5-2. 写真について(資料No3)

25枚の写真のほとんどは設計参考のための資料であると考えられる。購入したと思われる物がほとんどであるが、中には東熊が実際に撮影したと思われるものや、新家がインドを訪問した際に写真助手として随行した富本が撮影したと思われる写真も含まれている。

5-3. サンプル帳について(資料No4~7)

資料調査で4種類のサンプルが発見された。これらから東熊が皇族の生活をイメージし空間を設計していったと考えられる。

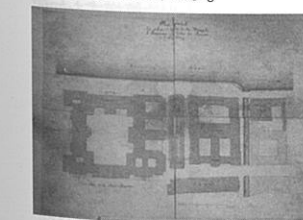


図3 冬宮殿配置図



図4 銀食器のサンプル

5-4. はがきとその送り主について

227枚のはがきは明治41年~大正4年にやり取りされた物である。表2にはがきの概要を示す。

表2 はがきの概要

記載	資料名	数量	記載	資料名	数量
なし	台北の写真のはがき	3枚	なし	錦渓温泉の写真のはがき	2枚
	朝鮮の写真のはがき	15枚		日光旅館の写真のはがき	2枚
	台湾の写真のはがき	6枚		鎌倉名所の写真のはがき	11枚
	場所を未特定の海外のはがき	1枚		沼津名所の写真	4枚
	ペリーに関する写真のはがき	5枚		年代不明の年賀状	2通
	御大禮堂知照奉祝会発行のはがき	3枚		昭和41年(1908)の年賀状	2通
	維新志士追慕展覧会記念のはがき	23枚		昭和42年(1909)の年賀状	5通
	演劇の写真のはがき	4枚		昭和43年(1910)の年賀状	15通
	大佛供養記念のはがき	3枚		昭和45年(1912)の年賀状	1通
	筑前大宰府天満宮御本社のはがき	2枚		東熊からてる子へのはがき	2通
	出雲大社の写真のはがき	1枚	田辺朝郎からのはがき(年賀状を除く)	9通	
	戦艦伊勢の絵はがき	1枚	田辺秀雄からのはがき(年賀状を除く)	10通	
	剣客 塚原ト傳関係のはがき	2枚	池田裕からのはがき(年賀状を除く)	3通	
	面々の碑のはがき	2枚	新家孝正からのはがき(年賀状を除く)	18通	
	宇治川電気株式会社工事	10枚	田辺多聞からのはがき(年賀状を除く)	1通	
	運搬道路工事の写真のはがき	1枚	井上貴からのはがき	1通	
	佐々木高美氏追悼記念のはがき	1枚	大村〇からのはがき	1通	
	日本女性の写真のはがき	2枚	河辺正夫からのはがき	1通	
	西洋人女性の写真のはがき	2枚	児玉文雄からのはがき	1通	
	大日本婦人教育会会場のはがき	1枚	舟橋聖一からのはがき	1通	
	岩倉鉄道学校創立十周年記念のはがき	4枚	田辺淳吉からのはがき	2通	
	藤原鎌足公の絵はがき	1枚	小冬吉からのはがき	1通	
	西郷隆盛肖像複製のはがき	1枚	前田恒次郎からのはがき	1通	
	美術展覧会出品作品のはがき	8枚	堀江次郎からのはがき	1通	
	日本美術協会書院所の写真のはがき	1枚	杉田〇からのはがき	1通	
	日本美術協会別館の写真的のはがき	1枚	桑原からののはがき	1通	
	官幣中社諏訪神社の写真のはがき	1枚	大村有〇からののはがき	3通	
官幣大社宇佐神社の写真のはがき	1枚	中村三四郎	1通		
海地獄(新別府温泉)の写真的のはがき	1枚	中野正剛	2通		
豊後血の池土獄(遊覧記念)のはがき	2枚	南一	3通		
播州舞子浜の写真的のはがき	2枚	齊藤	1通		
舞子公園の写真的のはがき	3枚	林植正	1通		
諏訪湖の写真的のはがき	3枚	その他	12通		
桜島の写真的のはがき	1枚				

5-4-1. 新家孝正について

新家は表慶館の現場監督と設計業務にも携わっており、赤坂離宮に関する業務に多忙であった東熊や設計課長の高山幸次郎を支えていたと言われている。明治42年の日本大博覧会建築設計の参考の為に派遣された欧米各国から18通ものはがきを東熊に送っていること(図5)から東熊と親交があったものと考えられる。新家の略歴を表3に示す。

表3 新家孝正の略歴

新家孝正		
1857		江戸生まれ 沼津長学校第9期生徒 兵学校庶校に在り上京 工部大学校第4期生として入学
1882		工部大学校造家学科卒業 工部省技手として勤務
1883	明治16年	宮内省庁舎の設計に従事
1886		滞留省に移籍
1887	同20年	日本土木会社に入社
1893	同26年	独立 臨時博覧会事務局付 6月19日 調査のため米国「コロンブス世界博覧会」に派遣される
1906		東京勸業博覧会建築工事顧問
1910	同42年 8月29日	日本大博覧会の建築設計参考の為、ヨーロッパ各国及び米国へ派遣される。
1914	大正3年	工部博士

※国立公文書館蔵 任免状可書・公文雑纂
社史発刊準備委員会/編、1963、大成建設社史より



図5 新家のはがきの送り元

5-4-2. 池田稔について

池田は明治35年に東宮御所御造営局設計課勤務を嘱託され片山の下で勤務した後に日本大博覧会技師となり、アラスカ、ユーコン太平洋博覧会へ新家同様に日本大博覧会の建築設計上参考の為として派遣を命ぜられている。派遣の際に3通のはがきを東熊に送っており（図6）、東熊が日本大博覧会工事計画審査委員を嘱託していたことも関係し、東熊に師事していたのではないかと考えられる。表4に池田の略歴を示す。

5-4-3. 田邊朔朗について

朔郎は大正2年に土木界のパイオニアとして土木に関する教育事務の視察調査及び万国道路会議出席の為に欧米各国へ出張しており、各国から6通のはがきが東熊に届いている。（図8）独特なはがきには切手と消印がないため出張の土産として朔郎から東熊に手渡しされたと推測される。（図7）また、東熊も関与した京都三大事業の竣工記念も届いており、両者には土木界・建築界を発展させる同志としての親交があったと考えられる。

表4 池田稔の略歴

年	月	池田 稔
1902	明治35年	帝国大学建築学科卒業
		東京御所御造営局設計課勤務
1905	同38年	日露戦争へ出征
		東京御所御造営局へ勤務
1906	同39年	進官
		日本大博覧会技師となる
1908	同41年	陸軍歩兵少尉に任官される(陸軍歩兵少尉正八位勲六等)
	11月18日	農商務技師を兼任する
		高等官七等
		アラスカユーコン太平洋博覧会にて日本館を設計する
1909	同42年	日本大博覧会建築設計上参考のため、アラスカユーコン太平洋博覧会へ派遣される
1912	同45年	高等官五等(日本大博覧会技師兼農商務技師正七等勲六等)
1914	大正3年	東京大正博覧会にて第二会場・中華貿易館の設計を担当する
		※国立公文書館蔵 任免裁可書・公文雑纂より



図6 池田のはがきの送り元

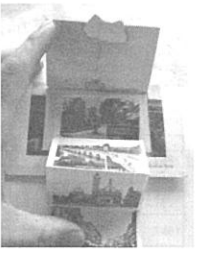


図7 朔郎からののはがき



図8 朔郎のはがきの送り元と訪問先

5-4-4. 田邊秀雄について

田邊秀雄は朔郎の長男で東熊の甥にあたる人物であり、東熊の妻てる子に9通、東熊と息子の鉾三郎に1通のはがきを書いている。どれも、日常生活や旅行の話などで、

中には伊藤忠太と男体山を登った話などもある。大変秀才であった秀雄は東京大学建築学科在学中に亡くなっており、発見された秀雄の年賀状のデザインスケッチは、志半ばで倒れた建築家の卵の貴重な作品である。（図9）



図9 秀雄のスケッチ

5-4-5. はがきの全体から見えること

226枚のはがきの中で記載があるものは101枚である。残りのはがきの中には朝鮮民族等の生活を記録したはがきが多くあり、東熊の嗜好を垣間見ることが出来る。また、維新志士記念のはがきも多くあり、これらは東熊が長州藩の出身であるということを物語っている。片山家へのはがきの送り主（表6）には現東京大学に関する人物が多く、各々が明治維新以降の近代国家の幕開けに貢献した人物であり、彼らの活躍には長州と明治政府の関係が表れていることが分かる。（図10）

表6 はがきの宛名と送り主

宛先	送り主	送り主	送り主	送り主
片山東熊	東熊	中栄徹郎	堀信次	伯爵萬里小路通房
湯浅鉾三郎	新家孝正	河辺正夫	阪田真一	中野正劉
片山鑑子(てる子)	田辺淳吉	三島通良	中村三四郎	片山真五郎
片山東熊執事	田邊秀雄(秀雄)	武田伍一	田山九一	齊藤
大澤とめ子	池田稔	田邊多聞(多聞)	山田森子	児玉文雄
〇〇 鐘次郎	田辺朔郎(朔郎)	舟橋喜一	井上貞	瀬川雅亮
富澤政賢	松井清足	前田恒次郎	大村有〇	山田寅次子
	北村耕造	林植正	田邊とし子	大村〇
	小花冬吉	桑原	杉田〇子	

6. まとめ

今回発見された新出資料は、赤坂離宮を設計する際に東熊自身が参考とした実物の資料であり、創始期の特徴を顕著に表わしていることが分かる。また、明治維新から大正までの時代を垣間見ることのできる歴史的に非常に価値のある物である。（図11）

参考文献

- ・小野木重勝. 1979. 「日本の建築[明治大正昭和]2様式の礎」. 三省堂
- ・太田博太郎監修. 1999「日本建築様式史」. 美術出版社
- ・藤森照信/著. 1933. 「日本の近代建築史<上> 幕末・明治篇」. 岩波書店
- ・鈴木博之監修. 2006. 「皇室建築・内匠寮の人とその作品」. 建築画報
- ・日本建築学会/著. 新家孝正. 1910. 「建築雑誌・我國将来の建築様式を如何にすべきや」. 社団法人日本建築学会
- ・池田稔. 1909. 「建築雑誌・米國「シヤトル」博覧会日本陳列館新築工事仕様書」. 社団法人建築学会
- ・西川正治郎/著. 1924. 「田邊朔郎博士六十年史」. 山田忠三
- ・社史発行準備委員会/著. 1963. 「大成建築史」. 大成建設株式会社
- ・田邊康雄. 1991. 「琵琶湖疏水にまつわる、ある一族の話」. 編集協力近畿化学協会編集部

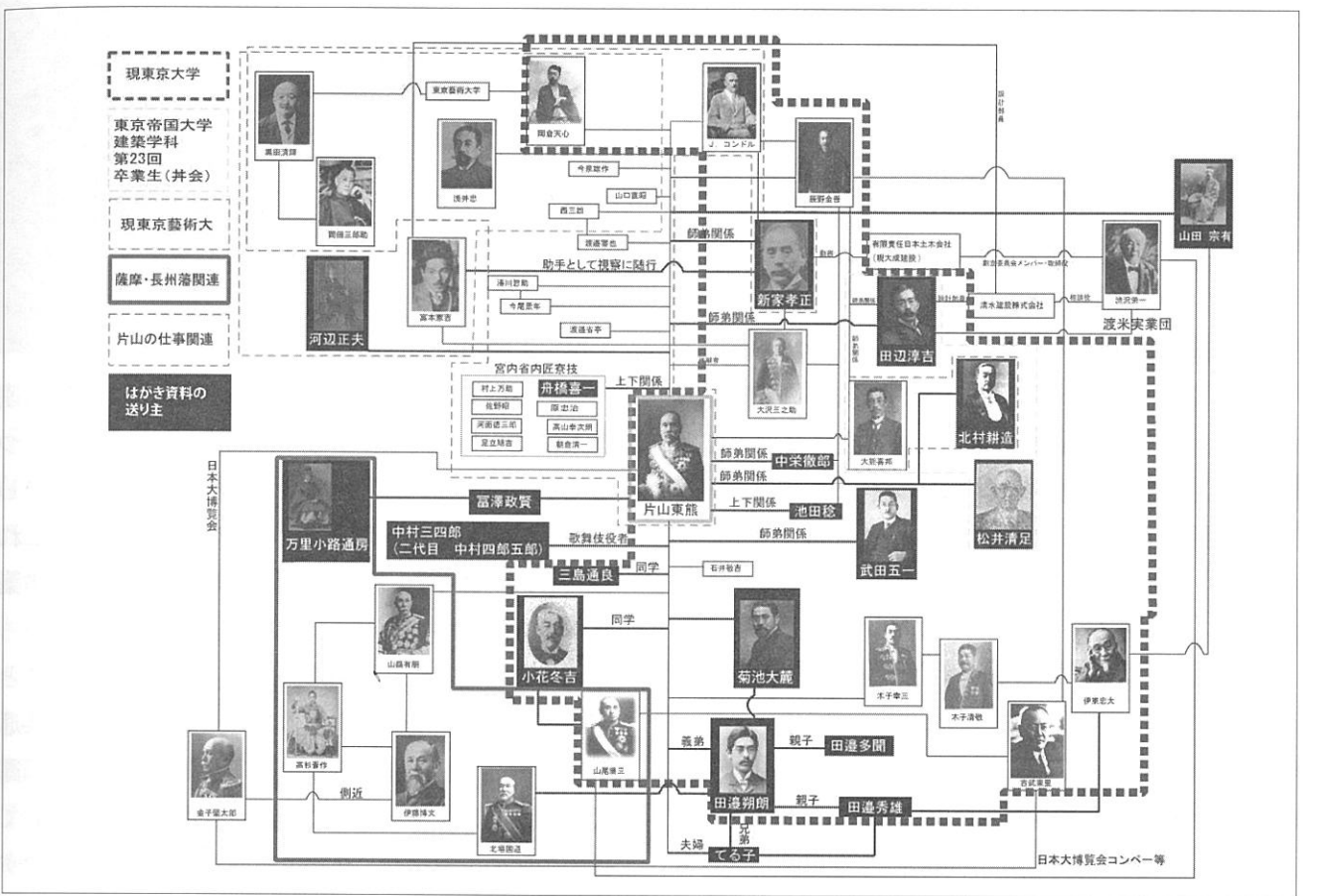


図10 はがきの送り主と背景の人物相関図

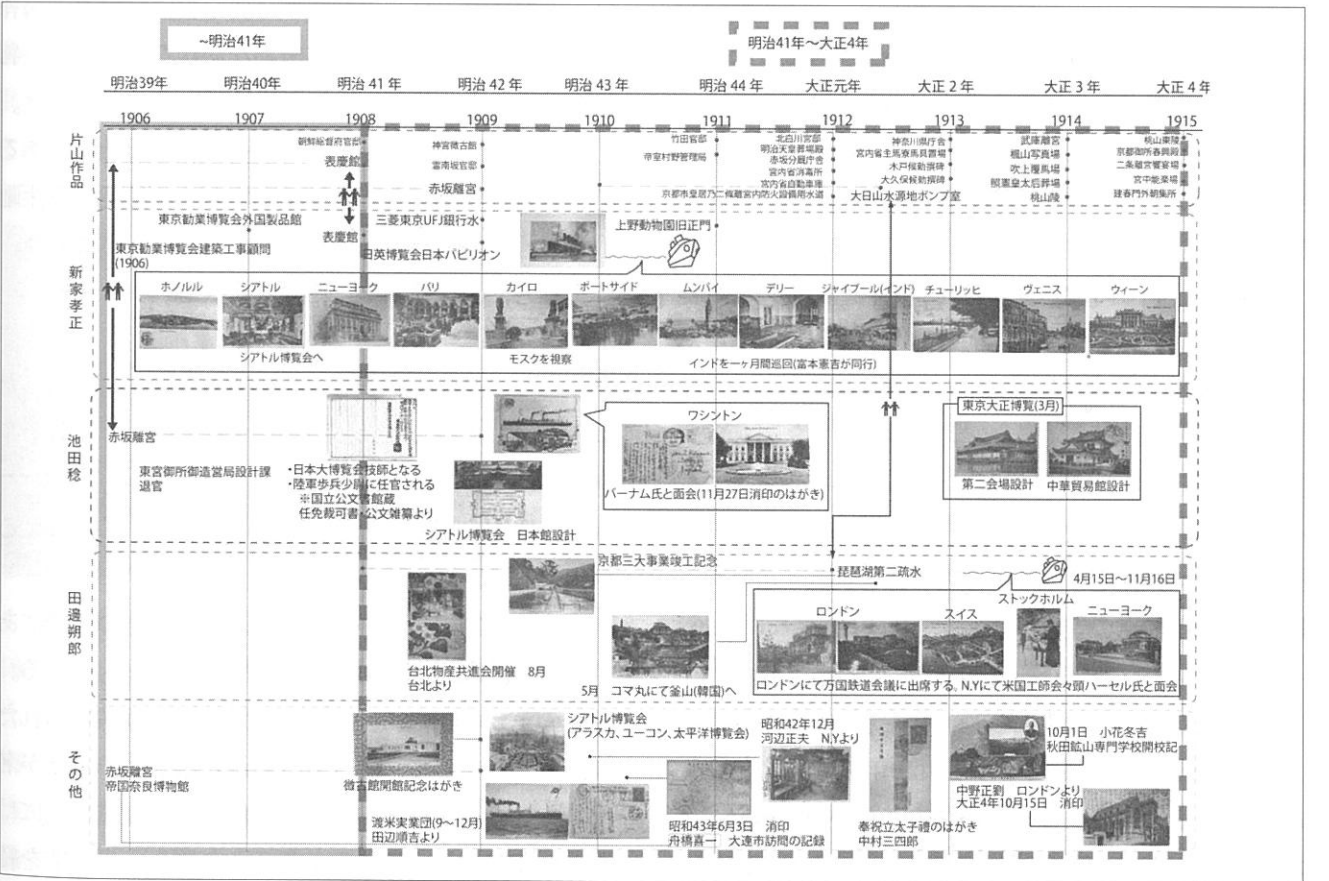


図11 資料年表